

# ビクター通信

④

## アレルギー疾患は増えている

市立総合病院小児科部長 工藤 眞生

昭和六十二年日本アレルギー学会総会において「アレルギー疾患は増えているか」と題したパネルディスカッションが開かれましたが、結論は確かに増えているということでした。二十年間アレルギー外来に携ってきた私の経験でも、学童の気管支喘息の罹患率は、二十年前には一％であったものが現在では三％になっています。このよう

### (3)アレルギー素因を持つ親と食物アレルギーの関与

当然アレルギー疾患が増えると、アレルギー素因を持つ親が増えるわけです。素因を持つている親から生まれた子供は、食物アレルギーになりやすく、その影響が後でアレルギー疾患を起しやすくなる要因ではないかといわれています。特に、妊娠後期の妊婦食、乳児期早期の離乳食での卵の影響が指摘されており、アレルギー素因のある親から生まれた乳児の場合は、出来るだけ遅く、少なくとも十カ月間は卵を与えないようにといわれています。

### 増加の原因は

#### (1)住環境とダニ

気管支喘息の原因のなかで最も多いのはダニによるもの。このダニの繁殖が、サッシ、断熱材使用の住居様式、じゅうたん敷き、冷暖房完備の生活様式により増えているということです。

#### (2)大気汚染の影響

花粉症の発症には大いに関係して、特に自動車の排出物が問題とされています。もちろ

に予防するのだと思います。しかし、現にさまざまな症状に悩んでいる人に対しては、適切な治療と指導が望まれます。せき、喘鳴、呼吸困難、皮膚炎、かゆみ、涙、目の充血、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、嘔吐、下痢、じんましん、疲労、夜尿、その他ショック症状等まで、さまざまな症状を示すアレルギー疾患は、実は人間の最も大事な身体の恒常性を保つ免疫反応の一つで、その過剰反応が起こったために生じた病気なのです。そして自律神経の要因、心因的要因などが加わって、更に症状が多彩になっていきます。このよう

なことから、単純な考え方は病気の本質を見抜けません。例えば、検査で牛乳に対しての抗体を認めたからといって、牛乳を飲まないようにすれば治るかという、必ずしもそうではありません。アレルギー疾患を持つている人は、一人ひとりその要因や身体に起こっている反応が違っていますから、それぞれに合った対応が必要です。

今年から日本アレルギー学会も認定医制を設定しましたが、第一回の合格者の名簿を見ると、全国で五百九十人のうち、秋田県では私一人とさみしい限りです。これからもっともっとアレルギーに関心を持った保健、医療が望まれます。

### 症状はいろいろ

次に、私たちは何をすべきかといえますと、家庭および社会的環境の整備と、次の世代の子供たちのアレルギー疾患をい

## 学ぶ輪が ひらく心と 郷土の未来

— 第14回『教育の日』 9月15日～17日 —

学び合い、豊かな教育風土をはぐくもうと実施されてきた「教育の日」。今年は九月十五日から三日間にわたって、中央公民館、文化会館を会場に開催されます。ぜひご来場ください。

▽9月15日～17日

会場・中央公民館 時間・9時～17時

▽昔の教科書展

(明治から昭和にかけての教科書、通信簿などを展示します。)

▽第二十一回大館地区発明工夫展

▽全日本学生、児童発明工夫特別展

▽保育園、幼稚園、小中学生書画展

▽市民美術展(一般作品展)

▽菅江真澄、真崎文庫公開展

▽9月17日

会場・市民文化会館

▽教育について「私の提言」集会 10時30分～12時

▽記念講演「賢い女性の生き方、母親の生き方」 13時30分～15時

講師・江森陽弘氏(ジャーナリスト) 左写真

▽楽しく学ぶ集い 15時～16時

○鼓隊パレード(市内12校)桂城公園出発 9時30分

※「昔の教科書展」

に展示するもの(教科書、通信簿、教材等)を探しています。お貸しください。お貸しください。

さる方は、教育委員会(内線254・255)までご連絡ください。

願います。



願います。